

# 「第5回北東アジア企業発展フォーラム」 「第12回中国延吉・図們江地域国際投資貿易商談会」 会議・視察報告

ERINA 経済交流部経済交流推進員  
蔡聖錫

8月27日、延辺朝鮮族自治州企業連合会・企業家協会が主催する「第5回北東アジア企業発展フォーラム―実態経済と製造業」が延辺朝鮮族自治州（延辺州）の州都・延吉市の白山ホテルで開催された。同フォーラムには国外からERINAのほか、韓国経営者総協会、ロシア沿海地方商工会議所から出席があり、地元の企業家ら約50人を含め、全部で約90人が参加し、日中韓4カ国の同時通訳で行われた。ERINAからは丸山由明業務執行理事と筆者が参加、発表した。

翌28日から31日には、第12回中国延吉・図們江地域国際投資貿易商談会（図商会）が同じく延吉市の延吉国際コンベンションセンターで開催され、視察した。延辺州人民政府、吉林省経済技術合作局、吉林省商務庁、吉林省貿易促進会、吉林省観光委員会が主催し、延吉市人民政府、延辺州経済技術合作局、延辺州商務局が主管した。

## 1. 第5回北東アジア企業発展フォーラム

この会議は2013年から毎年開催されている。今回のテーマは「実態経済と製造業」で、北東アジア各国の伝統的な製造業のアップグレード、労働生産性の向上、生産環境の改善、技術開発やイノベーションの活性化などについて情報・意見交換を行った。

### (1) 各代表団による基調講演

#### ①延辺朝鮮族自治州企業連合会会長 金碩仁

今年上半期、全国GDPの成長率が6.8%であるなか、吉林省は2.5%、遼寧省

は5.6%、黒龍江省は5.5%で、東北地方の経済成長率がいずれ全国平均を下回っており、経済情勢が好ましくない。東北地域経済の問題は、市場経済度合の低さ、国有企業の活気の無さ、民間企業発展の不十分さなどにある。問題を解決するためには産業のアップグレードが必要であり、企業における知的生産の普及、産業のインターネット化、製造業における再生可能エネルギーへ転換などの対策が必要だ。また、北東アジア各国の経済組織・企業団体間の連携を強め、投資・貿易の促進、域内物流ルートの活性化、特に琿春―ザルビノ港―東草の物流ルートを一刻も早く再開したい。韓国農心企業が延辺州で生産したミネラルウォーター「白山水」を韓国向けに累計50万トン輸出し、貨物量は問題ではない。

#### ②ERINA業務執行理事 丸山由明

新潟県には食品加工業、機械製造業、金属加工業、電子機器製造業、化学工業、繊維産業において代表的な企業がある。その発展プロセスには、事業拡大よりも堅調な経営を好む新潟企業家の気質があり、常に技術革新を重視し、企業間競争よりも共同繁栄を重視する姿勢がある。

#### ③慶尚北道経営者総協会 常任副会長 張永虎（ジャン・ヨウンホ）

今年は南北首脳会談、米朝首脳会談が実現し、朝鮮半島は大きなターニングポイントを迎えている。南北をつなぐ鉄道建設など、朝鮮半島を含む北東アジア地域における物流の活性化は各国の製造業に発展と変化をもたらすだろう。

#### ④ロシア沿海地方商工会議所会頭

##### ボリス・ストップニツキー

2017年にロシアのGDPは1.8%増加し、2年連続の低迷から改善しつつある。世界経済が回復に向かい、中国経済の発展は依然として高い水準を維持し、ロシアのエネルギー資源・製品に対する需要は高い。世界エネルギー価格はロシアの予想より高くなりつつあり、将来は期待できる。

近年、ロシア極東地域では「先行発展区」、「ウラジオストク自由港」などの制度が次々に導入され、ビザ制度の簡素化、税関通過サービスの効率化も実施している。さらに、投資企業に対する行政手続きの簡素化や、税制面での優遇措置など、ロシア極東に投資環境は整備されつつある。

### (2) 各国企業家の講演内容

#### ①吉林敖東薬業集団延吉股份有限公司 董事 李秉安

- 中国の製薬産業は先進国と比べて生産技術や、生産プロセスの部分で発展が遅れている。国内では約6000社の製薬企業があるが、そのほとんどは生産性が低いものであり、知的生産の理念についてはまだ学習段階である。
- 知的生産の理念を実現するため、2015年8月、国外の製薬設備製造企業と連携して、フリーズライ生産ラインに設備を導入して、生産プロセスのデジタル化、製造・管理の情報化、生産過程の可視化を図った。その結果、製造コストの12%削減、人的資源の約8割節約、薬品の品質向上を実現した。

#### ②神豊情報技術（延辺）有限公司総経理 李永春

- 2005年8月にトヨタ自動車の系列会社

の出資により設立された延辺州唯一の日系独資のIT企業である。

- 会社の主力商品としては、自動車マーケティング管理システム、企業ERPシステム、現在物流管理システム、企業人事管理ネットワーク、電子取引用プラットフォームの開発とメンテナンス、スマートフォンと3Dプリンターのリンク・制御などがある。また、最近ビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)受託業務も行っている。
- 設立当初、現地の事情を顧慮せずに本社の制度をそのまま適応したところ、人材流出の問題が発生した。また、2008年のリーマン・ショック、2011年の東日本大震災の影響で、日本からの発注が減り、破産の寸前に陥った。その後、取締役会で企業経営について話し合い、大まかな部分については日本方式を参照するが、細かい部分は現地の事情に合わせて柔軟に対応することで合意した。
- その後、勤務時間の調整、人材育成プロセス、労働組織の設立と活動の定期化、待遇アップと賃金管理制度の改善、会社理念の作成、ERPシステムの導入、採用の現地化(吉林省内限定)などを実施した。その結果、離職率が50%から10%以下まで下がった。近年、社員の離職がほぼなくなった。近年、社員数を毎年20%増やし、今後5年以内に100人まで、10年以内に200人～300人まで増やす計画だ。
- 中国のIT産業の規模は2008年の7,572.88億元から2015年の42,847.92億元まで成長しており、年平均成長率は28.09%で、国のGDP成長率を上回っている。
- 日本のIT産業によるアウトソーシングは1990年代から北京、上海、大連などの大都市圏に集中している。人・月単価が最近では30万円～35万円まで上昇するなど、円安や中国の物価上昇につれ採算が合わなくなり、すでに北京、上海、大連の企業は日本市場から国内市場に切り替わったところが多い。これに対して日本は少子高齢化の影響でAI、生産設備の自動化などの需要が多く、これからも日本企業の発注単価は上昇すると予測する。これは延辺のような中国の地方都市にとってはチャンスだと思う。大都市に比

べて延辺の賃金は低く、物価も安いので、人・月単価20万円ですら十分魅力を感じる。

- 延辺のIT産業の特徴は、他地方に比べて日本語人材が豊富であり、日本のアウトソーシング受け入れの態勢ができていく。
- 延辺のIT産業の課題は、零細企業が多く企業間の連携が取れていないこと、行政からの支援はハードルが高く中小企業に届かないなどがある。また、企業にとっては人材育成の負担が多く、行政が人材育成を手伝ってくれれば大変助かる。例えば基金を設立して、その基金で人材を育成して企業に就職させるなどの方法を検討して欲しい。
- 延辺のIT産業育成については、まず日本のアウトソーシング需要を取り込み、地元企業・専門人材を育成して、IT産業の集積地を形成していくこと、将来は国内の製造業を支える地域になることだ。

### ③京畿道経営者総協会副会長 吳基燮(オ・ギソプ)

- 韓国の製造業は狭い内需市場の克服、外貨獲得、設備投資のけん引、研究開発による国家技術競争力の向上、労働市場の安定化などにおいて重要な役割を果たした。
- 2016年時点で、韓国のGDPに対する製造業の付加価値の比重は27.6%で、これは世界平均(15.6%)、アメリカ(11.6%)、日本(21.0%)、ドイツ(20.6%)より高い。通常、産業が一定のレベルまで発展した後、GDPに対する製造業付加価値の比重は減少に転じるが、韓国は例外で今でも増加する傾向である。
- 2017年、韓国のGDPに対する輸出の比重が43%で相対的に高く、輸出のうち製造業が全体の9割を占めている。輸出品目は自動車、半導体産業に集中している。
- 韓国の製造業はOECD諸国と比べると、付加価値率が低く(OECDで25位)、労働生産性も低い(OECDで29位)。さらに、国内からは賃金上昇の圧力もある。また、輸出における対中依存度が高く(24.8%)、中国の経済成長鈍化による輸出不振や、中国製造業の実力向上に

よる競争力の相対低下、過剰供給、価格競争などのリスクを抱えている。

- 韓国、中国、日本の3カ国は世界最大の製造業基地であり、日本はハイエンド技術・部品素材機器に、韓国はミドルエンド技術・製品に、中国はローエンド技術・製品にそれぞれ特化してきた。これに将来、北朝鮮が参加すれば、北東アジアの製造業に大きな変化と成長をもたらすことになるだろう。
- 北朝鮮のインフラ開発と経済発展のための投資の活性化は、北東アジア経済の新たな成長の原動力になりうる。但し、その前に核ミサイル問題の解決や、信頼関係の回復など解決しなければならない課題が多く、慎重に接近する必要がある。

### ④吉林韓正人蔘有限公司董事長 李重贊

- 同社は、韓国人蔘公社が出資して延辺州で設立され、2014年7月から「恩珍源」という新規ブランドで市場に進出した。
- 当初は高麗人蔘の保健食品を中心に事業を展開する予定だったが、保健食品の販売許可が下りなかったため、現在は一般食品で製品を製造・販売している。不合理な規制、不慣れたビジネス環境、新規ブランドの確立などで創業早期は苦労した。その後、商品の効果と品質が徐々に消費者に受け入れられ、現在の売上は伸びている。
- 近年、中国人の食品に対する安全意識と健康食品に対する需要が年々増えており、今後も高麗人蔘と紅参の市場は拡大するだろう。現在「恩珍源」は吉林省の有名ブランドに選定されており、今後は中国の著名ブランドを目指している。
- 延辺の製造業に対する助言としては、技術者不足の問題の解消、生産設備および支援施設に対する部品供給、メンテナンス体制の確立などがある。延辺の製造業インフラ不足の問題を解消するために、ICT、IoT、ビッグデータ、AI、クラウドコンピューティングなどを活用するスマートファクトリーの設立が必要になるだろう。

### (3) 会議の所感

延辺に進出している外資企業の率直な意見は大変参考になった。会議では問題提起から解決策の提案まで幅広く議論され、延辺の産業を知る重要な機会となった。また、製造業のみならず、IT 企業の話も聞くことができたのは予想以上の成果だった。

近年、延辺では高麗人参による健康食品産業のほか、観光にも力を入れているとのことで、今後は、観光、物流を含むサービス業についても情報収集したい。

## 2. 第12回中国延吉・図們江地域国際投資貿易商談会

### (1) 参加者

主催者発表によれば、4日間の開催期間、約1万人が会場に訪れた。うち、投資目的の参加者は約3260人（国外からは約500人）、出展目的の参加者は約1530人、バイヤーは約6000人、フォーラムへの招待者は約112人だった。

国外からは、韓国、日本、ロシア、ドイツ、イタリア、ハンガリーなど約30カ国の国・地域から政府、経済団体、企業、学者など約800人が参加した。

### (2) 出展国・ブース数

全体のブース数は406コマで、屋内は224コマ、場外は182コマ、国内は287コマ、香港・マカオ・台湾は24コマ、海外は95コマだった。出展国は日本、韓国、ロシアなどの周辺諸国に加え、「一帯一路」の沿線国家およびアフリカからの参加もあった。北朝鮮、モンゴル、イラン、インド、パキスタン、ガーナ、タイ、インドネシア、ドイツ、オランダ、イタリアなどの25カ国から出展があり、そのうち19カ国は初参加だった。本国から担当者が来たのではなく、中国での代理店が出展したケースが多かった。延辺は主に朝鮮民族食品、医療・健康用製品、地元の資源などを展示した。

### (3) 各種イベント

同時期に、「中国医薬品品質管理サミット・敦化医薬城フォーラム」、「敦化市全域

観光プロモーション会議」、「中国、北朝鮮、韓国ハンゲル情報処理技術セミナー」、「図們江地域自由貿易区建設フォーラム」などの16回の会議・セミナーが開催された。前述の「北東アジア企業発展フォーラム」もその1つである。

### (4) 成果

貿易部門では国外取引金額は合計3000万ドルで、前回比6.4%増加し、国内取引金額は合計1675万人民元で、前回比34%増加した。

投資については、合計21件の投資が結ばれ、投資総額は207.38億元に達した。投資規模では、10億元以上の案件が5件、5億元以上の案件が4件だった。産業別投資件数と金額は下記の通りである。

産業別投資件数金額一覧

産業	案件	投資額(億元)
自動車部品製造	1	60

観光・サービス	2	25
医薬・健康	5	17.6
石油・化学	1	40
軽工業繊維	3	11
電子情報	2	2
冶金建築材料	2	1.5
インフラ建設	1	4
農産物加工	6	46.28

延辺では自動車部品製造業など興味深いものがあるなか、今回は観光・サービスについて説明したい。近年、延辺州では長白山、防川景区(中朝国境地帯)などの観光資源のPRに力を入れており、観光地の開発が急速に進んでいる。筆者は今回も琿春市の防川景区に行ったが、琿春市内から防川景区までの道路の両側は、ホテルや観光関連施設が建設中だった。わずか1年前に大図們イニシアチブ(GTI)第6回北東アジア観光フォーラム<sup>1</sup>の会場で流れたプロモーションビデオの映像が現物となり、延辺の観光開発のスピードに少し驚いた。

北東アジア企業発展フォーラムの会場



(出所) 筆者撮影

場内展示ブース



(出所) 筆者撮影

<sup>1</sup> ERINA REPORT (PLUS) No.138 (2017年10月)を参照。